

21st.century primitive huts/studio blank

s-residence in setagaya



s-residence in setagaya
exterior
hiroaki taki

photo:ryuji miyamoto



s-residence in setagaya
exterior
hiroaki taki

photo:ryuji miyamoto



s-residence in setagaya
living dining
hiroaki taki

photo:ryuji miyamoto



s-residence in setagaya
room 1
hiroaki taki

photo:ryuji miyamoto

敷地は都内の中心部にありながら、珍しく緑の多く残る一角。老朽化した木造平屋建ての家を取り壊し、隣接する日本家屋を母屋に、北側に増築を行いました。敷地にあった雑木林の中で、クルミ、マツ、カエデの木だけはなんとか残し、それらの木や母屋、西側のアパートを含めた全体の環境の中で、いかに光や風、景観、プライバシーのバランスをとるかが課題となりました

家族は親子2人。「合理的すぎて生活が規定されてしまう家ではなく、これから新たな暮らしが生まれていくような可能性を秘めた箱」という希望に対し、限られた予算と面積の中で豊かな空間を実現するため、それぞれの部屋がお互いに触れ合い、新たな何かが生まれるような住まいをイメージしました。

玄関から廊下へ、中庭を左手に見ながら進むと個室2があり、半階スキップして個室1、そして2階リビングへそれぞれがゆるやかに連続し、螺旋状の動線につながっています。眺めのよい2階リビングの外、1階平屋の屋上にはテラスが設けられ、ここが周囲の自然との接点に。敷地内のカエデの枝葉が、心地よい木陰をつくっています。

ユニークなのが個室1の存在です。吹き抜けで天井を高く取り、リビングに連続させたこの部屋は、リビングと個室のふたつの特色を併せ持つ部屋。地窓とトップライトという対照的な窓からの光が、時の移ろいととも刻一刻と部屋に変化ある表情をもたらし、家族の希望である豊かなイメージーションを生み出す空間を形づくっています。

■世田谷s邸

所在地/東京都世田谷区

主要用途/専用住宅

家族構成/親子2名

用途地域/第1種中高層住居専用地域

建ぺい率/60%

容積率/182%

規模/敷地面積：499.45m²

延床面積：95.53m²

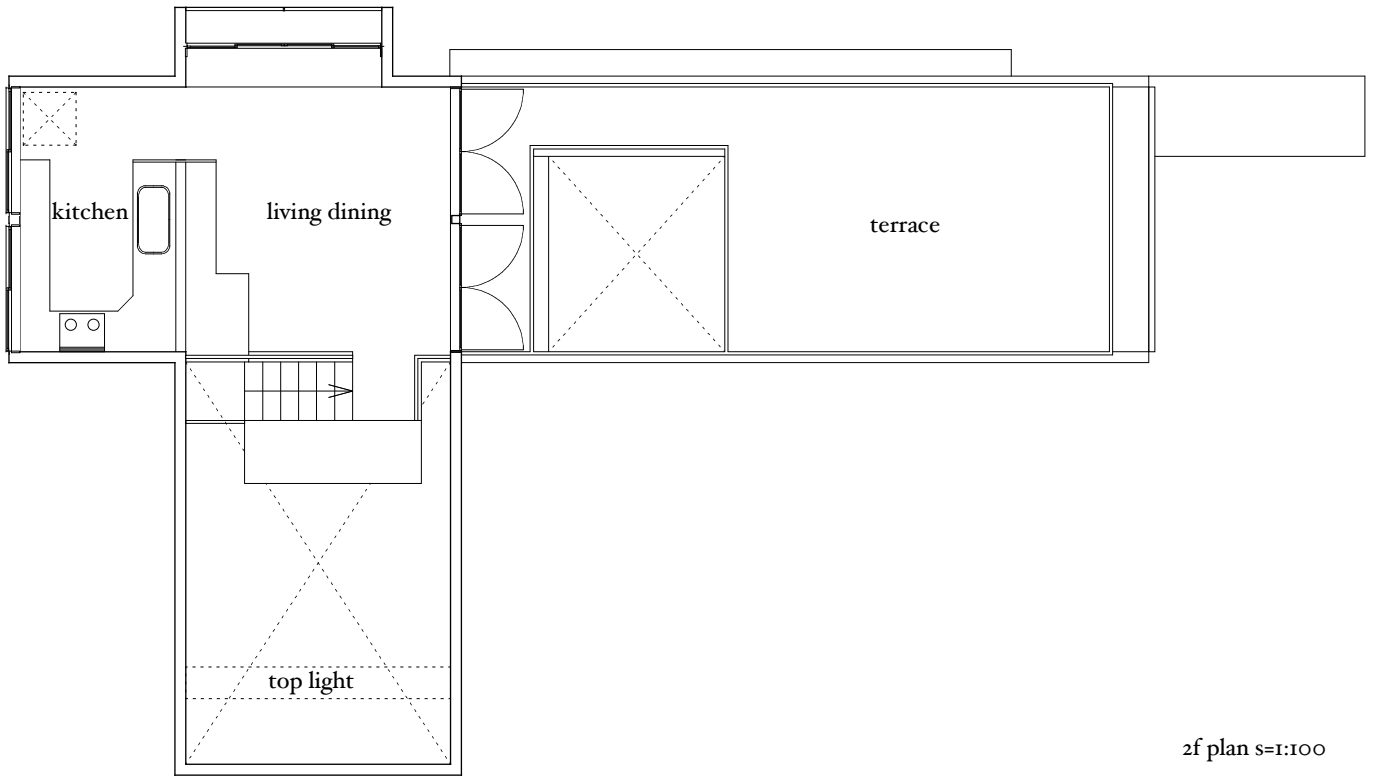
1階：72.77m²

2階：22.76m²

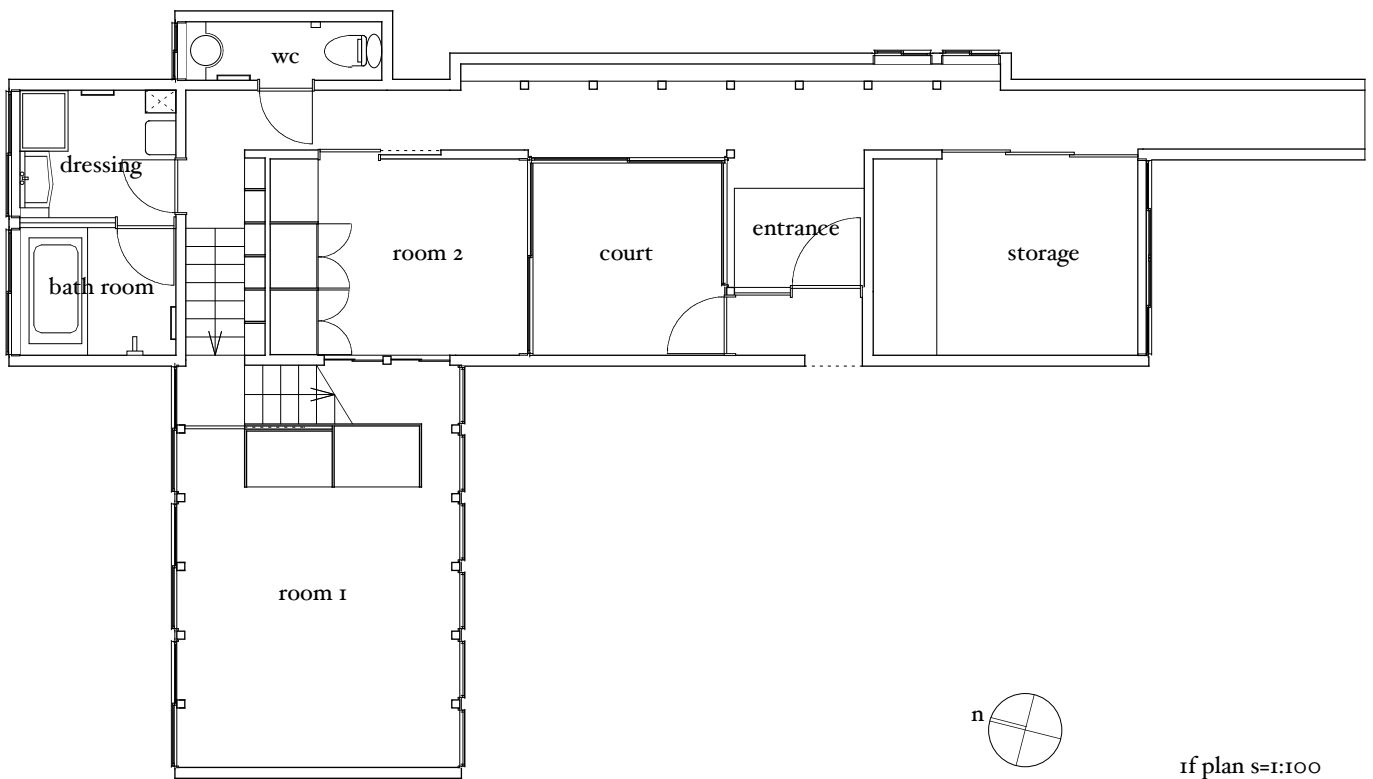
構造/木造軸組工法

総工費/1950万円

共同設計者/竹内晶洋

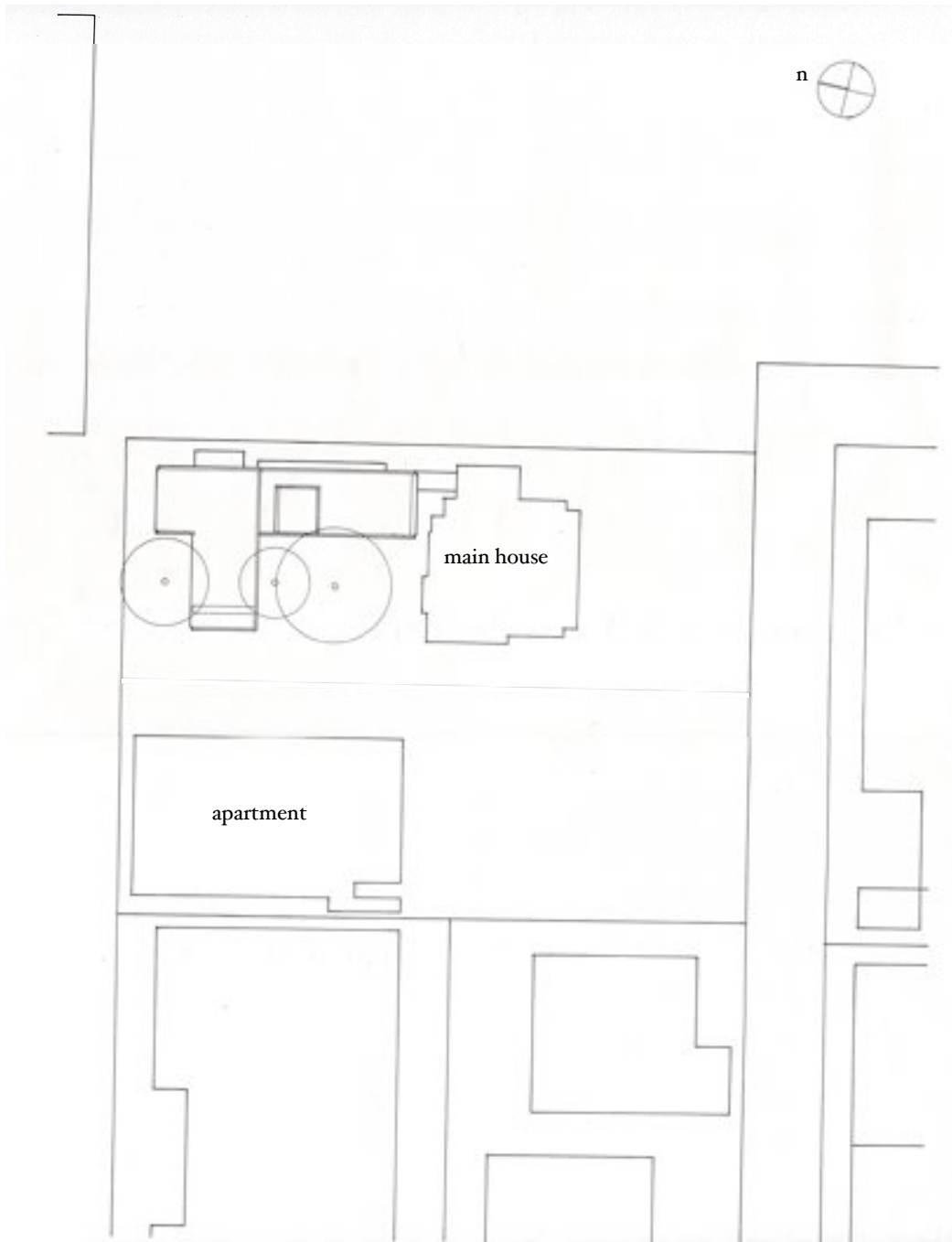


2f plan s=1:100



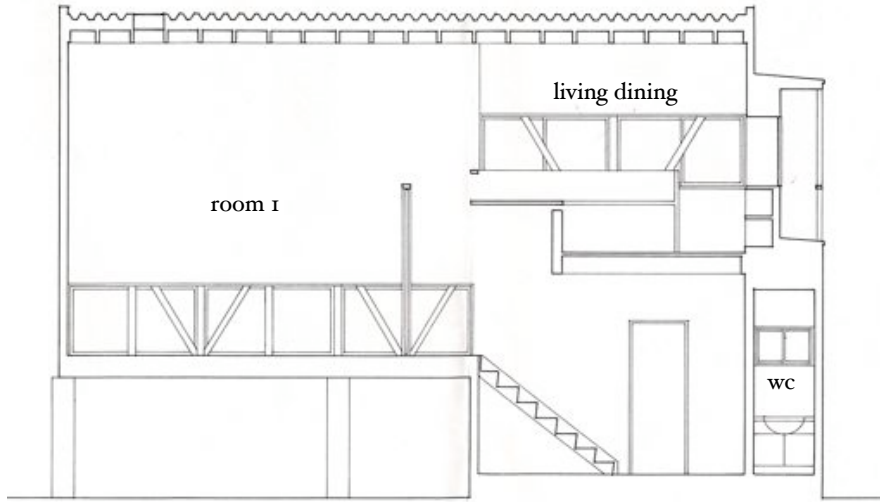
1f plan s=1:100

s-residence in setagaya
 plan
 hiroaki taki

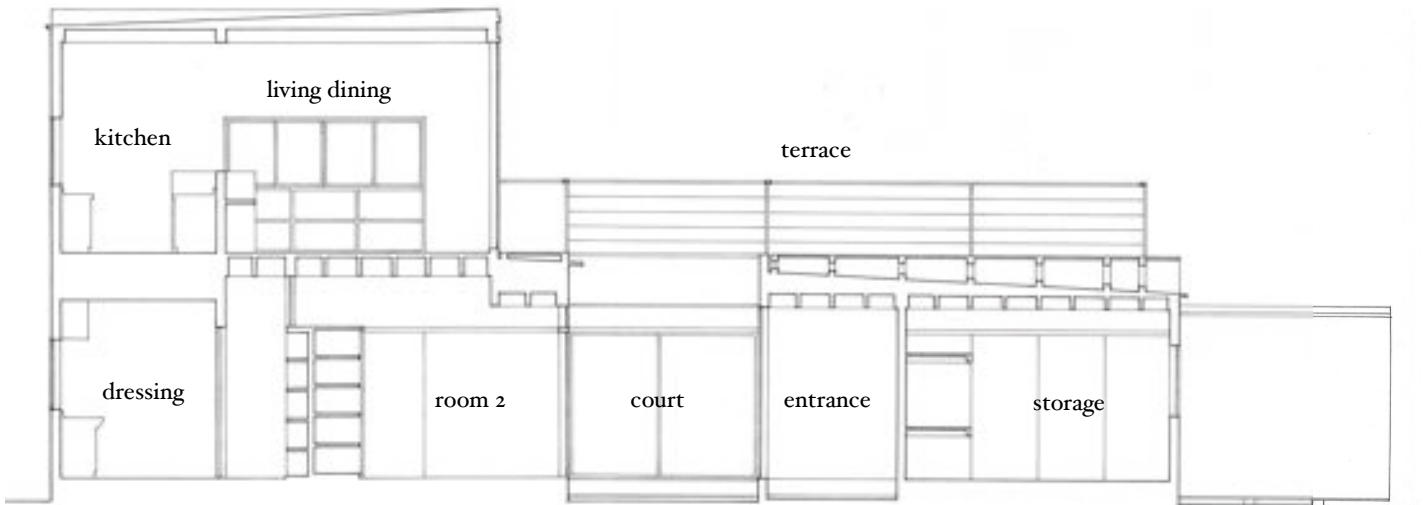


site plan s=1:400

s-residence in setagaya
site
hiroaki taki



section s=I:100



section s=I:100

s-residence in setagaya
 section
 hiroaki taki